

金光教へようこそ

初めての方に向けて

金光教大阪センター

神と人を結ぶ —取次(とりつぎ)—

金光教では、万物を生かし育む天地のはたらきを神として拝み、天地金乃神と呼んでいます。そして、その神から「難儀な氏子を取次助けてやってくれ」と頼まれて、難儀に苦しむ人が立ち行くように、参拝者の願いを神に届け、神の願いを参拝者に伝えるという取次に専念するようになったのが、金光教の教祖である生神金光大神です。

取次は教祖から代を重ねて6代目にあたる現教主へと受け継がれながら、世界中の教会においても行われています。



日に日に生きる —信心—

金光大神は、日々の生活における助かり、人間そのものの助かりを教えました。それは、「日に日に生きるが信心なり」と、信心にもとづく生活を進めること、生活がそのまま信心になる生き方を、たゆみなく求めつづけることなのです。

信心とはわが心が神に向かうことであり、その姿をもって日々の生活を送ることです。そこに神のおかげを受けることができ、生かされて生きている人間であることの自覚が深まっていくのです。



天地書附

金光教の信心の本質を端的に示しています。

「見えるところに張っておくように」と、教祖が参拝者に授けました。

生神金光大神
天地金乃神
心願
おかげは和賀心あり
今月今時たのめい



会堂の内部写真

祈りの作法

本部広前では、正面中央にある**神前**の神様(天地金乃神 生神金光大神)と、左側にある**霊前**の御霊(みたま)様に祈りを捧げ、右端にある**結界**で取次を頂きます。ここでは神前と霊前で基本的な作法をご案内します。

神前と霊前で基本的な作法



① 一礼



② 四拍手



③ 心中祈念



④ 四拍手



⑤ 一礼

※祈念の際に『金光教拝詞集』を唱えます。拝詞集は広前に常備しています。

取次の頂き方

あなたはどのような願い事があってお参りになられましたか？ここでは結界で取次を頂く作法をご案内します。信奉者は、本部広前で取次に従事する教主を「金光様」と呼んでいます。あなたの願い事を素直に金光様にお話してください。

取次を頂く作法



結界に進む

① 一礼



② お供えをする場合は、前のへぎ盆の上に差し出す



③ 自己紹介をして、参拝の理由や願い事を申し上げる



④ 金光様からお言葉や、ご神米を頂く



⑤ 一礼

結界から退く

「お守り」を求められている方へ

◆ ご神米(ごしんまい) ◆

本部や教会に参拝して取次を願うと、ご神米を頂くことがあります。ご神米のなかにはお米が入っています。

このご神米は、「天地のお恵みを表すもの」として、また、「その恩恵を忘れないように」との願いが込められたもので、祈りを込めて食したり、拝む目当てにしたり、神具店等で売っているご神米袋に入れて身につけている人もいます。



◆ み教え、お言葉のしおり等 ◆

教祖やその弟子たちが残した、多くの教えを記したもの(書籍やしおり等)を日々の信心生活に取り込む指針として、大事にしています。み教えしおりは、金光教徒社(金光教関係の図書販売所)で無料で配布しています。



金光教には、神社で販売されているようなお守りはありませんが、信奉者が個人的にお守りのように扱っているものは幾つかあります。